

花と緑の地域活動を行う方々へ

2020年度～2021年度
フラワーダイアログあおば事業における
保木公園愛護会の伴走支援プロジェクトの報告書

はじめに

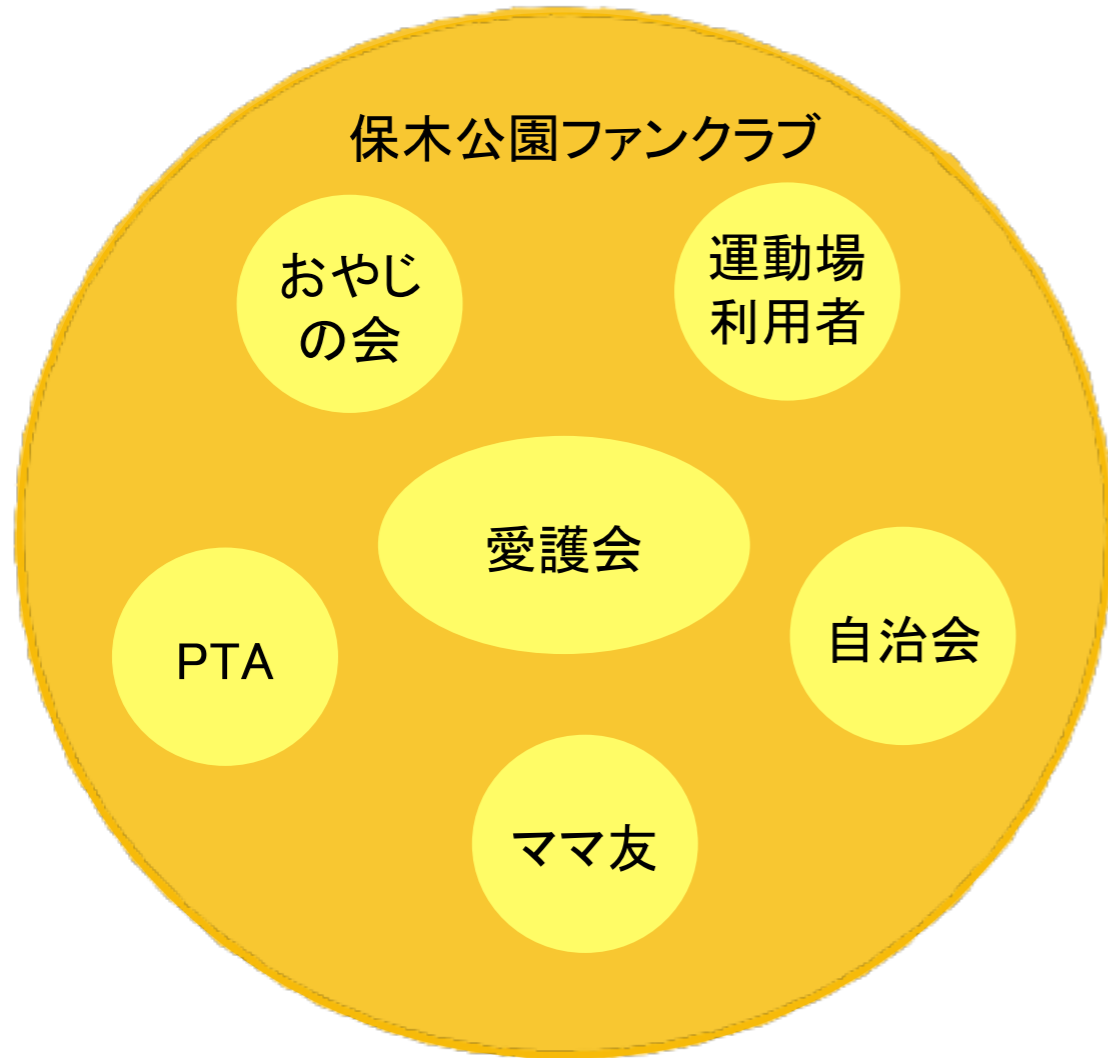
この資料は保木公園愛護会が、花と緑の活動を通じてより良い公園づくりに取り組んだ事例を紹介するものです。

青葉区と森ノオトは、協働で行う「フラワーダイアログあおば」事業を通じて、区内の花と緑に関する活動団体が担い手不足などの課題を抱えていることを知り、その解決策を探していました。同時期に、そのような課題を持ちながらも、意欲的に活動をはじめていた保木公園の存在を知り、その活動の伴走支援を行うとともに、活動の取材を続けました。

保木公園は愛護会だけでなく、地域を巻き込み、近隣住民の力で活動を活性化させ、公園に一層の賑わいをつくっています。公園愛護会に限らず、花と緑の活動を行う団体の皆さまには、この事例をご覧いただき、活動の参考にしてほしいと思います。

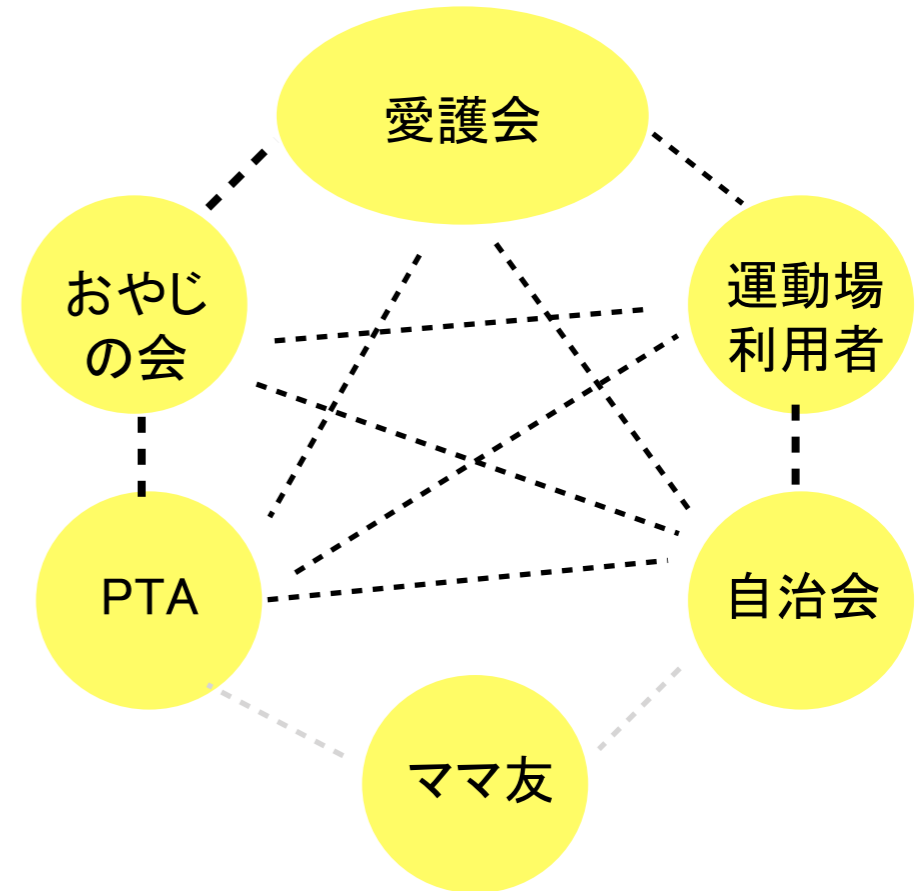
プロジェクト前後の変化

プロジェクト後の状態



LINEグループ「保木公園ファンクラブ」により、公園をベースとして各団体が緩くつながっている

プロジェクト前の状態



互いの団体を認識しながらも、連携した取り組みなどは行っていない

愛護会そのものを知らない人が多い

保木公園の活動が活性化したポイント

- 地域を巻き込み、新しい仲間を受け入れた
- LINEグループ「保木公園ファンクラブ」による緩やかなつながり
- 参加者の自由な意見交換と実現に向けた行動力
- 活動を義務的なものではなく楽しんで行うことができた

活動の道筋

2020年8月

2021年4月

2022年3月

フラワーダイアログによる伴走

第1回
会議

第2回
会議

第3回
会議

第4回
会議

第5回
会議

第6回
会議

保木公園愛護会メンバーによる自主的な運営

定期的な活動(月一回のクリーンデー等)

保木公園
ファン
クラブ
誕生

堆肥
置き場
設置

補助金
申請

地域交流
花壇
づくり

部分
月食を
観る会

保木公園
探検
①

保木公園
探検
②

剪定枝で
染め物
実験

カブト
ムシの
幼虫
配布

前から気になっていた
やりたい！が実現！

やれたらいいな！が
副産物的に実現！

<u>はじめに</u>	p1
<u>1 : 保木公園モデルプロジェクトの背景</u>		...p6
<u>2 : 実際の取り組み</u>		...p10
<u>3 : 成果 プロジェクトを経て現在の活動はどうなったか</u>		...p22
<u>4 : プロジェクト参加者の感想</u>		...p32
<u>5 : 保木公園の方々が考える今後の展望</u>		...p36
<u>6 : 補足と考察</u>		...p39
<u>資料集</u>	p42

1: 保木公園モデルプロジェクトの背景



本図面は既存資料を基に作成したものであり
測量図ではありません。

公園名	保木公園		
所在地	青森県美しが丘西二丁目5番1		
図面名	一般平面図	番 号	
年 月	平成27年4月	縮 尺	1/500
青森県 青森土木事務所			

1: 保木公園モデルプロジェクトの背景

保木公園とは？

住所: 美しが丘西三丁目65-1

面積: 24,251㎡

開園日: H07.03.24



© OpenStreetMap contributors



青葉区の最北端、閑静な住宅街が広がる美しが丘西地区最大の公園。利用者は様々だが、特に子どもたちの遊び場として、また、犬の散歩道として近隣住民によく利用されている。多目的広場があり広場の管理は公園愛護会とは別の地元住民組織により管理されている。広場は、サッカーや野球の練習など運動や健康維持活動のための利用、どんど焼き等、地域の伝統行事の会場としても親しまれている。最寄駅は東急田園都市線たまプラーザ駅である。

保木公園が抱えていた課題

人手が足りない！

保木公園愛護会が結成されてから21年目、活動の継続が危ぶまれた2017年に、世代交代のバトンタッチが行われた。新会長をはじめ、集まったメンバーにはとても活気があったが、コロナ禍で企画していたイベント等ができず、やる気を活かす場を失ってしまった。普段は、それぞれ仕事を持っているため忙しく、清掃や花壇づくりなど日常的な活動に参加できるのはごく少数に限られており、人手が足りない状態が続いていた。

近隣の小学生をはじめ、若い子育て世代や、犬の散歩をする人、多目的広場を使う人など、幅広い年代に利用されているが、保木公園は都市公園の種類でいう「近隣公園(※)」で、その広さから、業者や行政が管理運営から日常の清掃までしてくれるものと思っている人も多く、「自分たちで手入れをして良い」という認識が広まっていない。

※ [公園の種類についての詳細は国土交通省都市局公園緑地・景観課のHPへ](#)

花や緑を通じた活動を模索中！

メンバーの一人が、ひまわりやマリーゴールドを植えて育てるなど、花壇づくりを手探りで行なっていたが、園芸や自然についての興味関心を持って作業を手伝ってくれる人が求められていた。また、花壇の近くに水場があるが、水やりのできる仕様になっていないため使えないこと、倉庫が遠い上に手狭になり、園芸作業に必要な道具を置けないなどの設備上の問題を抱えていた。

伴走期間の計画

下記のように、全5回の会議を予定していたが、対話の状況に合わせて適宜内容を変更。実際にはフォローアップのため、2月に6回目を実施することになった。

目的: 保木公園の魅力を一層高め、発信することにより、地域住民の皆様に、公園に対して興味・関心を持っていただくことで、花と緑のまちづくりの担い手を増やす

目標: 開かれた対話の場を核とした、花と緑のまちづくり活動のモデルをつくる

方法:

- ① ガーデンキュレーターとともに住民主体で保木公園の花と緑をリデザインし、公園の魅力を一層高める
- ② デザインコンセプトに基づき、持続可能な活動計画をたてる
- ③ 計画から実行までのプロセスを記録し、保木公園の魅力や、そこで活躍する皆様の公園づくりを森ノオトのウェブサイトやSNSを通じて発信することで、花と緑のまちづくりに興味を持っていただく

第1回(8月)企画の提案と持続可能な公園づくりのための情報共有

第2回(9月) コンセプトワーク

目的: プロの考え方に学び、長期的視野で公園全体のデザインコンセプトを考える

フィールドワーク&レクチャー Q-GARDEN 小島理恵さん (前半野外、後半室内でできると良い)

ゴール: コンセプトの決定 (プロジェクト名を考える)

第3回(10月)植栽計画をつくる

目的: デザインコンセプトに基づき、植栽計画立てる レクチャー&サポート Q-GARDEN 小島理恵さん

ゴール: 植栽図を完成させ、資材や資金調達の方法と、次回の作業内容を決定する

第4回(11月)第1回作業日

植え付けor土壌改良or草刈りなどをやるか、軽いイベント(密にならないもの)を実施する。

目的: コンセプトと計画を公開する

ゴール: コンセプトと計画をもとに最初の一步を踏み出す

第5回(12月)振り返り

目的: 成果と課題の抽出

ゴール: 今後のスケジュールや必要事項の確認

保木公園 を ゲーミング

歩いて楽しむ公園……
目撃してこよう!!

- ・ かつらの木 2本 枯れている
- ・ 雑草生えほおたい
- ・ 元の意図 なぜここにこの木?も やや不明。

- ★ 秋明菊が花を咲かせている。
- ★ アガパンサスもある。

- ・ 散歩
- ・ ランニング
- ・ 子どものおむがえに 大人がくつろぎ場所が ~~少ない~~ 少ない

- ・ 少しうすじらい印象
- ・ 落ち葉をまじらすと 雑草洞る。

★ このあたり から → も 見たと至の景色が よい。

水場

- ⑦ くつろぎエリア
- ・ あがみ屋 ひとつ。
- ・ テーブル 2つだけ 位のぞ 実はその下に くつろぎイメージなし。

★ 花を植えて、いつか その下で花見したい!
今年の石垣公園 花見X O

① エントランス

・ 珍山鳥 やつこく。
遊水池
・ トンボ・虫

②

- ・ 遊水池を望むデッキがあった (今は立入禁止にされている)
- ★ ほか放しきり5. 生物を調査 などにつながりそう。

2: 実際の取り組み



- ・ 実は花たんがある。
- ・ 日かげ
- ・ 作業が しづかい。

★無理に 植えなくてもいいから 葉がきれいな 植物は いいかも。

- ④
- ・ 実は花たんがある。
- ・ 日かげが 花は育ちにくい
- ・ ライトの下は 南側の花たん
- ・ 斜面下の遊歩道的道もあり

水場

- ## エントランス 2
- ・ 愛の会の花たんがある。
 - ・ アガパンサス 2つにも
 - ・ 桜の木は 植定した 明3になる。
 - ★ 1番人の目に 触れやすい場所

本図は既存資料を基に作成したものであり 測量図ではありません。

公園名	保木公園		
所在地	青森区錦しが丘西三丁目55番1		
公園名	一級公園	番号	
年月	平成31年3月	縮尺	1:500
青森区 青森土木事務所			

2020年8月1日 第1回会議(キックオフミーティング) プロジェクトの開始が決定

地域の方の参加人数: 16人 場所: 美しが丘西地区センター会議室
愛護会メンバー6人に加えて、自治会長、おやじの会の方々、美しが丘西小学校の校長先生、近隣マンションの住人、PTAつながりの地域の方々、森ノオトのライター経験者などが参加

共有したこと

- ① フラワーダイアログのこれまでの取り組みから、花と緑の地域活動の継続が難しくなっている現状と、その背景にある、情報の共有や発信の不足について
- ② 美しが丘西地区の歴史や人口などの基本データと、保木公園愛護会の活動状況について
- ③ 伴走支援の計画について(開かれた対話の場を核とした花と緑のまちづくり活動のモデルづくり)
- ④ (地域の方からの意見) 開発前の原野の風景についての話や、おやじの会が活発なこと、開発当初から、新旧の住民が良い関係を築いていることなどの地域特性や、コロナ禍で保木公園の利用者が一層増えたことによるゴミ問題を気にする声が寄せられた。また、地域の歴史をまとめた冊子を後日いただくなど、地域をよく知り、次の世代につなげていきたいという思いの強さが感じられた

決定事項など

参加者それぞれが感じている地域や公園の魅力と課題、また取組内容について感じたことなどを、一人ずつ発表してもらう。それらを踏まえ、モデルプロジェクトを始めることを決定

2020年9月12日 第2回会議 フィールドワークとゾーニング①

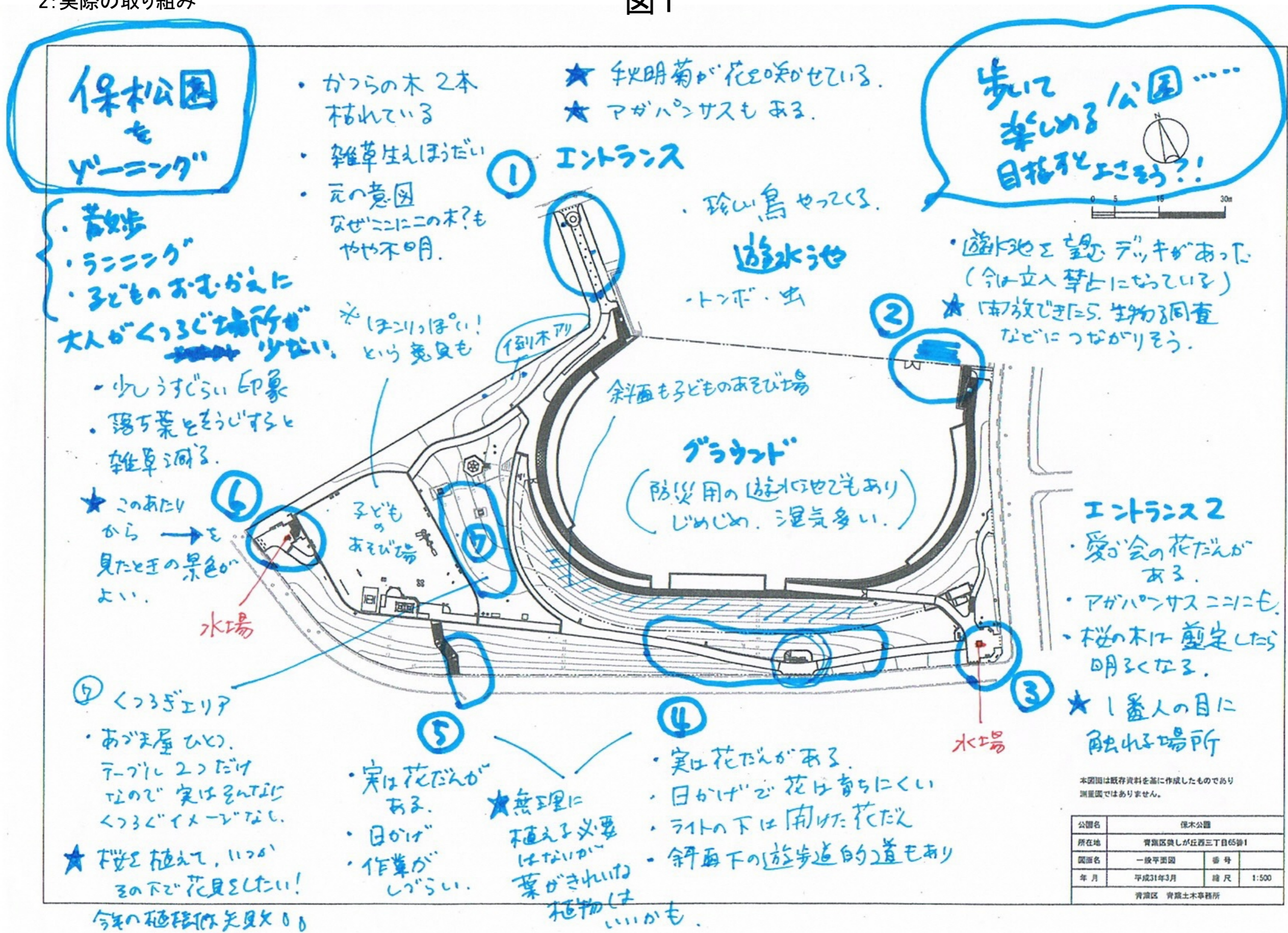
地域の方の参加人数: 15人 場所: 保木公園と美しが丘西地区センター会議室
園芸の専門家とともに、保木公園をぐるりと歩いてハードとソフト両面から観察して回り、一旦解散後に会議室に再集合して、現状や構造を改めて可視化する作業をする

共有したこと

- ① 伐採した方が良い木(枯れ木・密集して生えた木)がある
- ② 花が少ない。また、花壇など住民が手を入れられるスペースが荒れ気味
- ③ 水やり、花壇づくりの作業などをするための動線が良くない

決定事項など

思っていた以上にハード面の課題が浮き彫りになり、住民でできる範囲のことがどこまでか、確認する必要が出てきた。→愛護会費や助成金情報を伝える
どんな公園にしたいかを模索する中で、おぼろげながら、大人もくつろげるような「散歩して楽しい公園」を目指してはどうかという方向性が見えてきた。※次ページの図1を参照



2020年10月18日 第3回会議 ゾーニング②

地域の方の参加人数:5人 場所:美しが丘西地区センター会議室
日程変更をしたため、愛護会コアメンバーと自治会環境衛生部の方での実施になったが、少人数であることからかえって話し合いが進んだ

共有したこと

- ①保木公園愛護会の現在の持ち物、予算、愛護会全体の支援メニューの確認
- ②公園「愛護会」という名前だと敷居が高い印象がある。若い人はほとんど知らない。多世代の公園のファンが活動できる場にしたい
- ③楽しそうという情報発信が大事。義務感でやるのは良くない

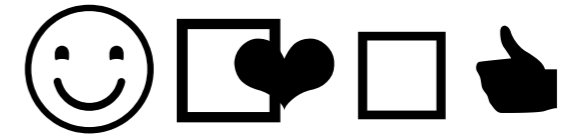
決定事項など

LINEグループ「保木公園ファンクラブ」立ち上げ決まる。(登録者は当初19人、2021年3月時点で33人に増えた。愛護会の実質メンバーは13人。公園愛護会の掲示板や倉庫、近隣マンションの掲示板にチラシを貼り、口コミでメンバーが増えた)。
次回会議には、前回のゾーニングを受けて4つのエリア分割をしてつのエリア分割をしてアドバイザーであるQ-GARDENの小島理恵さんからプランを提案してもらうことになった。今後の地域の人口推移を知りたいという希望が出た

column1 保木公園ファンクラブ



公園への関心と活動の認知度が高まる！



●ルール

- ・LINEグループ保木公園ファンクラブ加入希望者は愛護会会長、もしくは、ファンクラブメンバーの誰かを通じて参加できる。
- ・保木公園に関することであれば誰でも投稿することができる。

●どんな投稿がされている？

- ・愛護会からのお知らせ(定期清掃デー・大型イベント情報・土木事務所の作業等の連絡)
- ・日常的な園芸作業や堆肥づくり作業の予定のお知らせと報告
- ・公園の困った！なんか変！の連絡(時計が止まっています！台風で枝が折れています！排水管溢れています！迷子のペット情報・防災関連のお知らせなど)
- ・花が咲いたよ、水をやったよ、など、通りがかりに気がついた変化など

●効果

- ・絵文字で感謝や気持ちを柔らかく伝えることができるため、人に対する親しみが湧く。
- ・幼稚園・保育園・小学生の子どもを抱えるママネットワークに情報が伝わるようになり、イベントやクリーンデーに参加してくれる人が増えた。
- ・イベントや活動に直接参加できなくても写真で様子を知ることができるため、地域住民による活動によって公園が守られていることを知る人の層が厚くなった。

2020年11月1日 第4回会議 園芸のプロからの提案と意見交換

地域の方の参加人数: 7人 場所: 美しが丘西地区センター会議室
アドバイザーを依頼したQ-GARDEN小島理恵さんから、公園内を4エリアに分けたプランを提案してもらい(次ページ・図2参照)、それを元にアイデアや意見交換を行う

共有したこと

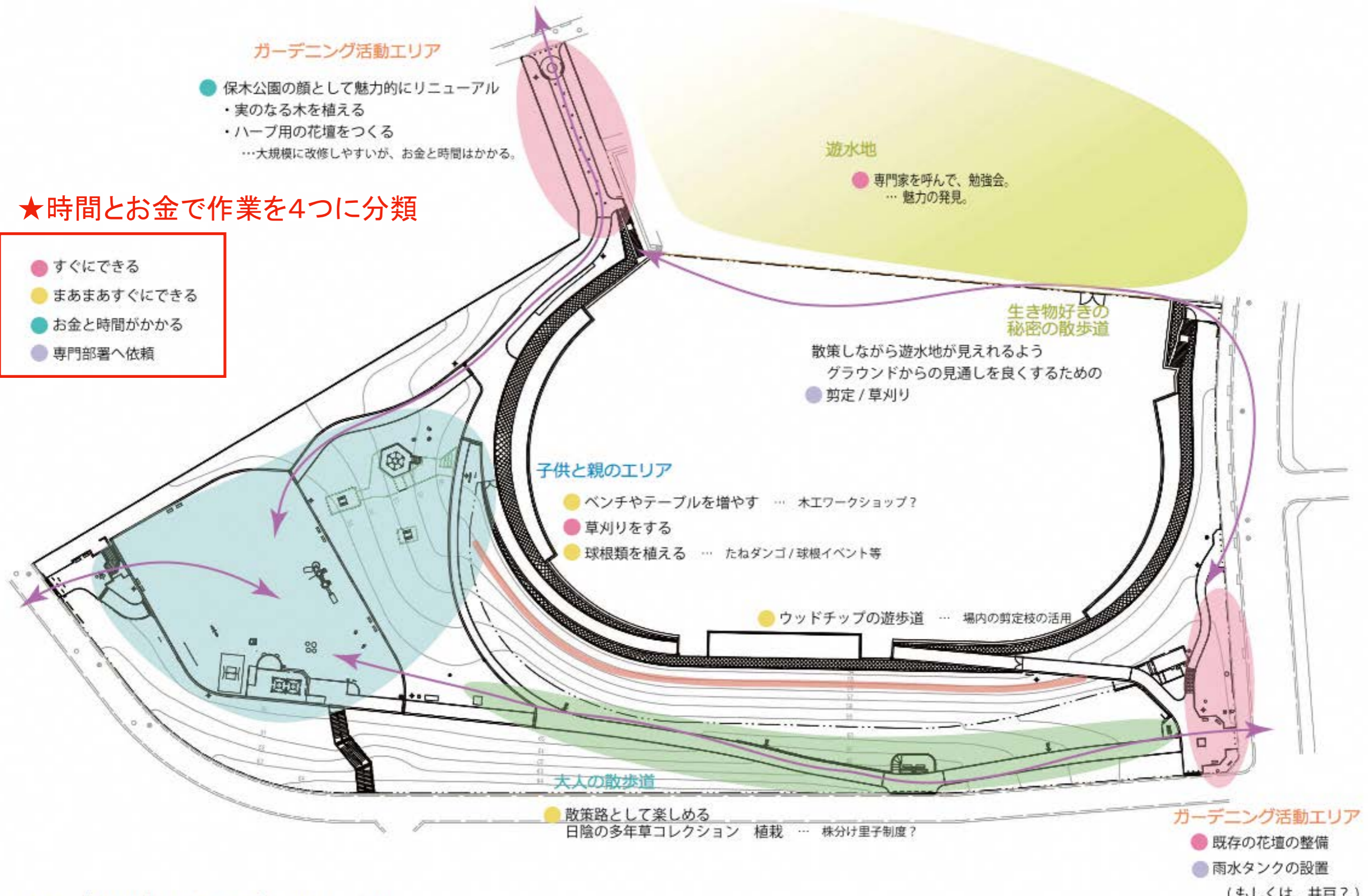
- ①今後の人口推移について小中学生の児童数のシミュレーションで、美しが丘西エリアでは、今後6年ほどで児童数が半減するというデータが区から提示された。区内でも減少率が高いことが判明
- ②地元で園芸に詳しく相談できる人がいないと継続が難しいという不安の声もあがる
- ③保木公園愛護会の持ち物や予算と、横浜市の公園愛護会マニュアルと支援メニューの確認

決定事項など

大人が楽しむことから多世代が関われるよう、4つのエリアごとに担当とリーダーを決め、それぞれに改めてエリアごとの大まかなプランを考えてきてもらうことになった

●専門家の協力で得られること●

公共性のある場所で花緑の活動が盛んな所は何らかの形でプロとの関わりがあることがヒアリング結果からみえてきている。一度またはある程度継続して、活動メンバー複数人で、専門家からのアドバイスを受けながら作業をすることで、手入れの仕方や計画についての共通理解が進み、活動が定着しやすくなる。活動の目的に合わせて、気になる園芸家や近隣の園芸事業者、園芸店等を探して協力の依頼を試みよう！



もともとの環境との調和を意識しながら、これまでに地域の方からでた意見を取り入れた提案がなされた

2020年12月13日 第5回会議 エリア担当からの計画発表

地域の方の参加人数: 11人 場所: 美しが丘西地区センター会議室
近隣の福祉作業所「桃の実」に関わっている愛護会メンバーを通じて、施設の園芸サポートをしている地域の方や開発当初の風景を知る方が新たに参加。自治会環境衛生部や小学校関係者含めて11名で、今後の計画について話し合う。

共有したこと

- ①これまでの話し合いと関わる人物と話し合いの流れを整理して可視化したもの
- ②水やりのホースやジョウロの共有の仕方について
- ③かつての原風景、自然の豊かさや、現在の近隣の植物の多様さなど公園周辺の環境について
- ④(地域からの意見) ペットを連れた人が作業に参加できるようにリードフックをつけられないか? 夜になると暗くて怖いので照明をつけたい、混雑時自転車が溢れるので駐輪用の設備をつけたい、ベンチを新たに設置したい、見晴らしが悪い所の木を切りたいなど、花や緑の計画の前に公園に必要な設備についての質問へ行政が回答。花壇エリアでは中軸となる花を植えたい、また、木々に樹名板をつけたいという計画が出たが、やりたいこと、公園の規模から資金面での課題が発生

決定事項など

土木事務所を通じて、春咲きの球根植えつけや堆肥置き場設置、遊水池探索、また、お母さんたちからの提案で子供達が参加しやすい夕方の清掃を12月中に実施することになった。資金面での課題について、企業や行政の補助金を獲得すればよいのでは、というアイデアがあり、検討を始めた

column2 堆肥置き場を設置する

大人も子どもも“みんなが初めて”の作業だからいい！

- ・横浜市のパーク愛護会支援メニューを利用するため、青葉土木事務所に依頼して設置
- ・イベント化して、子どもも大人も、作業を交代しながらやると楽しい。
- ・後は、2、3回くり返しの作業がある。完全に発酵すると堆肥として花壇の土作りに使えるので、資源の循環が見えて、お金を出して土や堆肥を買う必要がなくなる。
- ・保木公園では、花壇への水やり用のジョーロや愛護会のゴミ袋を置き、網で保護して鍵をかけ、ファンクラブや愛護会メンバーが作業したいときに使えるようにした。
- ・堆肥づくり、水やりとも、多世代が関わり交流するきっかけになった。



column3 地域活動とお金の問題

行政や民間企業による補助金や助成金を必要に応じて活用しよう

花や緑の地域活動に対しては、下記以外にも様々な補助金や支援がある。愛護会費や自治会の予算ではどうしても足りない場合など、資金面での課題を解決するアイデアとして補助金を検討してみてもどうか？ただし、申請や報告にはそれなりの事務量が発生する。結果的に資金の獲得ができなくても、申請の過程で対話が生まれ、活動のアイデアが広がるという効果もある。

・『みど*リンク』アクション

東急沿線で、地域の人々と協力しあって緑を増やす活動に対し、花苗、苗木、作業道具などの物品等による支援を行う東急株式会社の補助制度。支援額は1団体につき最大100万円。

・地域緑のまちづくり事業

横浜市がみどりアップ計画に基づき、市民との協働により緑化を進めるもの。住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画に対し支援総額は3年間で最大1500万円。

・あおば地域サポート補助金

地域課題の解決を目指した取組に対する青葉区の補助制度。
※令和4年度からは「あおばスタート補助金」に変更。

2021年2月21日 フォローアップの第6回会議 半年間の振り返りと、今後の活動計画の共有

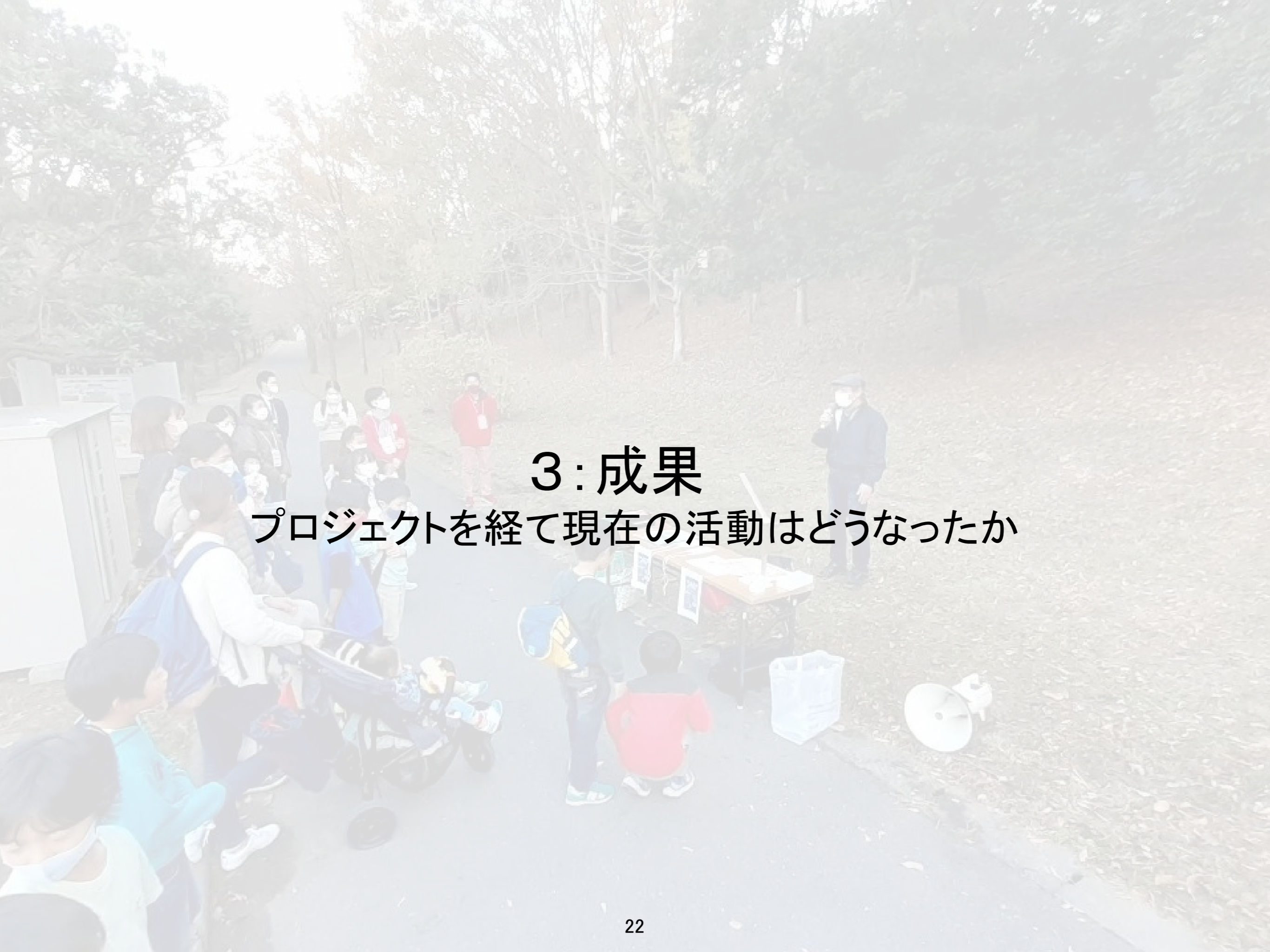
地域の方の参加人数:9人 場所:美しが丘西地区センター会議室
12月の堆肥置き場設置や球根植えには親子参加も多く、夕方の清掃トライアルで若いお母さんたちに公園での活動の認知が広がった

共有したこと

- ①前回の活動計画案と、アドバイザーの計画案を改めてまとめた表を共有
- ②青葉区の「地域サポート補助金」について
- ③愛護会メンバーが1人増えたこと

決定事項など

この伴走期間を通じて、活動の認知が広がって参加者が増えたことに加え、園芸に詳しい地元メンバーが愛護会に新たに加わった。それを受けて、これまでの話し合いや、計画案を再度地域の方々にブラッシュアップして、地域サポート補助金申請を本気で検討していくことが決まる。提出期限の5月末に向けて、3-4月に、愛護会のコアメンバーで申請作業をしていく。フラワーダイアログとしての伴走支援はなくなるが、必要があればサポートできる距離感から、会議や計画のプロセスへの参加や取材をさせてもらうことになった



3: 成果

プロジェクトを経て現在の活動はどうなったか

2021年度の保木公園での取り組み

① 定期的な活動

- 毎月第1日曜朝8時からのクリーンデー
- 堆肥づくり
- 作業が必要な時不定期で1週間に1度程度の園芸作業

② 補助金を申請して行った活動

- イベント実施
- 設備や備品の購入

③ その他の活動(スピンオフ企画)

- 剪定枝で染め物実験
- カブトムシの幼虫配布

① 定期的な活動(クリーンデー・堆肥づくり・園芸作業)

- ・プロジェクト以前から継続していた定期清掃が、クリーンデーとして近隣住民の意識に定着。その日集まった人で清掃とゴミ拾い、夏場の草取り、冬の落ち葉掃きを分担して実施している。
- ・花壇や堆肥の手入れは、月一回の活動では間に合わないので、園芸リーダーを中心に季節や作業量に応じて、こまめに手入れを行うようになった。
- ・球根を植えたり堆肥づくりに参加した子供たちが水やりをする光景が見られたり、子供達が学校の先生に公園での活動を楽しそうに報告してくれたという話があった。
- ・堆肥づくりに必要な道具をメンバーが購入して寄付してくれたので作業効率が上がった。
- ・福祉作業所と連携協力することが決まり、スタッフと利用者さんが、時々公園の作業に参加してくれるようになった。
- ・公園の落ち葉を堆肥にして、それで花を育てる循環が生まれた。



② 補助金を申請して行った活動

公園だからできる「人と地域のつながりづくり」事業を実施

公園の魅力を高めることで、人と人、人と地域のつながりをつくることを目的として事業計画を5月末に申請。7月に一部減額がありながらも、無事交付決定が決定した。8月に72万円の資金を得て、いよいよ担当を決めて下記イベントを実施。倉庫や荷車、球根や樹名板等を購入。申請にあたっては愛護会メンバーでリアルとオンラインを併用して何度も話し合い、区や土木事務所とのやりとりをする必要があった。コロナ禍でもできること、一過性のイベントで終わらないことを計画に落とし込み、必要な資材の見積もりをとり、最後は会長が文章にまとめて皆で確認して提出。申請の大変さを乗り越え、イベントも成功させたことでチームワークが一層高まった。

イベント①

保木公園でチューリップを植えよう! (無料)

ご家族やお仲間など、グループ単位で、大きな花壇の一部を作ってみませんか?
11月7日(日)の「チューリップの球根を植える作業」の参加者を募集します。

日時: 2021年11月7日(日) 10時~12時
※予備日 11月14日(日)、平日で植えたい方は応相談。

集合場所: コキアの緑地 (HAC入り口近く)

持ち物など: 軍手、花壇に入れる土や肥料、マスクなどのコロナ対策をお願いします。
近くに水場がないため、すぐ手を洗いたい方は水筒などをご持参下さい。

お申し込み方法: 保木公園ファンクラブのLINEで、10月31日までに次の2品をお知らせ下さい。
①グループの代表者
②人数

参加人数を決めて、LINEで申し込み、種苗の送付を受け取る。
お申し込み人数に合わせて、愛護会が球根の数を地域区分を調整。
当日は...ご希望の方は名札を作成、球根を受け取る。植える場所を指定。
球根を自由に配置、決定したら土をかける。名札を設置。
この先、特に水やりなどは任せてOKです。持ち帰りまでして下さい。

11月7日(日)
地域交流花壇づくり

イベント②

保木公園星空散歩
ほぼ皆既に近い!
部分月食
を見る会

JAXA宇宙教育リーダーさんらをお迎えし、天体にまつわる素敵な話をお届けします!

2021年11月19日(金)

タイムスケジュール
16:00 保木公園遊具広場集合
保木の歴史の勉強
天体の専門家の方から説明を受けながら観測
19:00 終了

＜持ち物＞
シート・飲食物・望遠鏡など
※保護者同伴をお願いします
※参加無料
※雨天、曇天の場合は、美しが丘西部地区センターで行います

今後の予定
12/12(日) 保木公園探検①
樹木を知ろう!
22年2~3月 保木公園探検②
樹木プレート取り付け
＆スタンプラリー

お問合せ先 保木公園愛護会 赤野 たかし 090-1050-8507
主催 保木公園愛護会

11月19日(金)
部分月食を見る会

イベント③

2021年12月12日(日)
保木公園探検①
~樹や花を知ろう!~

身近な公園、どこまで知っているかな?
放課後の友達遊び、土日の親子交流、ペットのお散歩やちょっとした遠足など訪れる機会が多いけど保木公園の事ほとんど知らないかな?
どんな形の公園で、どこにどんな樹や花があるのか親子や友達どうして気軽に学んでみませんか。当日はガーデンキョウターの小島理恵さんをお招きして、実際に園内を回りながら樹や花の観察や不思議話を聞かせていただきます。ご自身のちょっとしたガーデニングのきっかけから花壇での球根植えも予定しています。散策・行楽気分でご参加下さい。
来年開催の次回イベント「保木公園探検②」は、今回参加された方からのアイデア反映した「樹木プレート」の設置内訳も検討中。乞うご期待!

※参加無料、事前申し込みあり

【当日のスケジュール】
9:30-11:15(予定)
8:50からガーデンキョウター(園事務所)にて受付開始(お申し込み済みのみ)。お申し込みの順に受付開始いたします。
※雨天中止

【集合場所】
公園愛護会倉庫前

【当日の持ち物】
筆記用具・メモ(あれば)・筆記用具・飲み物・懐かし品類
※お申し込みの際は、お持ち物についてお知らせください。

(協力) 株式会社 Q-GARDEN
(主催) 保木公園愛護会
(お問い合わせ先) 赤野さん(090-1050-8507)
赤野さん(090-1050-8507)
赤野さん(090-1050-8507)

12月12日(日)
保木公園探検① ~ 樹や花を知ろう! ~
3月13日(日)
保木公園探検②
~ 樹と花のプレートを付けよう! ~

チラシも担当者が
それぞれ手作り!

どのイベントも
大人と子ども
合わせて30名以上の
参加があり大成功!

3: 成果 プロジェクトを経て現在の活動はどうなったか？



ジャングル化していた植え込みが人との繋がりを育む場所に！ 雑草を取り、土を耕し、花壇になった。



11月7日(日) 地域交流花壇づくり みんなで球根を植える。春の開花が待ち遠しい

3: 成果 プロジェクトを経て現在の活動はどうなったか？



愛護会メンバーから地域の歴史の話を聞いたあと、近くの見晴らしの良い広場へ移動して天体観測



11月19日(金) 部分月食を見る会 普段忘れていた、空を眺める時間を共有

3: 成果 プロジェクトを経て現在の活動はどうなったか？



この木なんの木？クイズを楽しみながら歩くと、いつもの公園の知らない姿が見えてくる



12月12日(日) 保木公園探検① ～樹や花を知ろう！～

3: 成果 プロジェクトを経て現在の活動はどうなったか？



12月に募集した公園内の愛称スポットと合わせて樹名板の取り付け。カワズザクラの苗木も植樹された



3月13日(日) 保木公園探検② ～樹と花のプレートをつけよう～

③ その他の活動(スピンオフ企画)

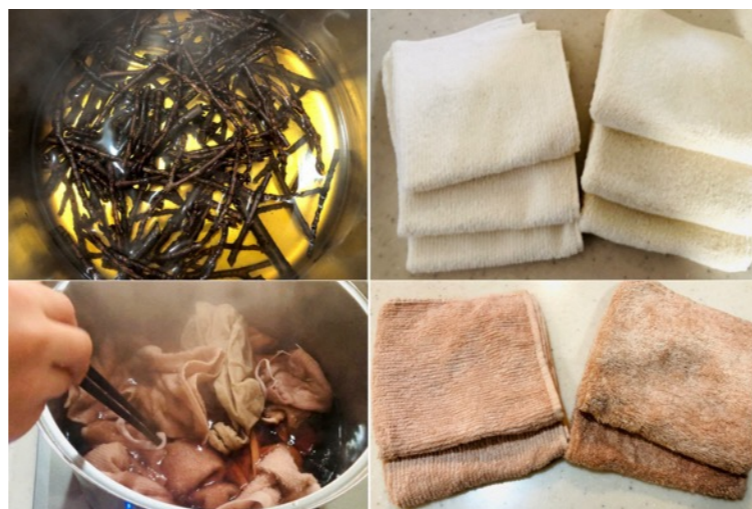
染め物実験成功！

2021年1月、公園入り口近くにある桜の木の枝が伸びすぎているので剪定して染め物実験。本当は、許可を得て公園で火を焚いて、大きな鍋で煮出して染めるというイベントを大々的に行いたところコロナが収束せず、愛護会メンバーの家の中でご近所のお子さん二人を誘って小さく実施。白いハンドタオルがほんのリピンク色に染まって実験は無事成功した。

カブトムシの幼虫を育てたい！という思いが叶う

堆肥置き場の中に収まらなかった落ち葉と米ぬかを使って、ビニール袋のままで堆肥づくりをする方法を同時に試みていたところ、袋の下が程よい暖かさだったのかカブトムシの幼虫が大発生(50匹以上)。2021年11月の地域交流花壇づくりや、定例のクリーンデーの後にサプライズ配布して喜ばれた。幼虫を夏に向けて、それぞれの家庭で無事育つかどうか、新たな共通の楽しみができた。


世代を超えた交流が
一層活発に！



花と緑の地域活動を行うには？

- ① やりたいことについて、まずは周りの人に話をしてみる
- ② 活動エリアの自然環境や行き来する人を観察してから計画をたてる
- ③ 関わる人を増やすため、掲示板やチラシ、SNSを活用して活動の情報をオープンにする
- ④ 人手が必要な作業をイベント化して楽しむ
- ⑤ 時には、プロの力を借りる

やってみることで、活動はおのずと活性化します。
いずれも、大切なのは、やる気のあるメンバーを中心に対話をしながら時間をかけて進めていくことです。
この資料が、皆さまの活動における課題の解決につながれば幸いです。



4:プロジェクト参加者の感想

愛護会会長(50代男性)

長年続けてきた愛護会をなくしてしまうのは、もったいないからと2017年に引き継いだ。当初は清掃活動を中心に行っていたが、愛護会メンバーの専門分野を通じて、2019年にはペットをテーマにした独自のイベントを実施し、好評をいただいた。その後は新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの地域行事が中止となる状況にあったが、公園利用者は逆に増加し、ポイ捨てゴミが増えるようになった。そんな折にプロジェクトへの声かけがあり、おかげさまで、これまでつながりのなかった方々も活動に参加してくれるようになり、愛護会に加え「公園ファンクラブ」というグループもできた。花や緑のことについては、土木事務所のコーディネーターさんや植物に詳しい愛護会メンバーに助けられている。さらにアドバイザーが加わったことも心強かった。コロナ禍でのイベントは、密にならないよう配慮して行い「星を見る会」や公園内の様々な場所に公募での「名称」や樹木に「樹名板」もついて、公園をグレードアップすることができた。関係した皆さんに心から感謝している。

愛護会コアメンバー(50代ご夫婦)

ペットのイベントが楽しかったことをきっかけに愛護会に入った。花壇づくりなど初心者なりに、向日葵やマリーゴールドを植えて、タネをとったりしていたが、公園の水道が使えないため家から水を運んだりとかなり苦労していたのが解消したことが大きな変化。フィールドワークをした時に蛇口の形状や数、動線の悪さを皆に確認してもらい、その後、土木事務所が蛇口を交換してくれた。愛護会でも長いホースを購入し水やりの手間がぐっと省けるようになった。また、園芸の師匠と言える人が加わってくれたので、花壇に関してはすっかりお任せしている。花や緑の活動の場合、その作業が好きで得意な人が一人は必要だと思う。補助金申請に関しては、夜間の防犯のために、照明器具を試しに取り付けて様子を見る実験などもしていたが、その企画はなくなってしまったのが残念。公園でできること、できないことについてや、堆肥づくり、樹木の名前など大人も知らなかったこと。桜の枝の染め物は、身近な公園で枝を切るところから体験できて、実際にやってみたらちゃんと染まったので嬉しい。楽しい活動をこれからもしていきたい。

2020年の会議に参加していた方(40代女性)

森ノオトとの繋がりから声かけがあり初回から会議に参加した。花を楽しむ公園というイメージがなかったのと知識がないので植栽計画を立てるのはちょっと難しかった。蚕を育てるのに必要な桑の木はあると良い。公園には実のなる木など収穫を楽しめるものを植えるのが難しいとも知った。上の子が中学生になり家から公園まで少し距離があることから、清掃やイベントへの参加がなかなかできず申し訳ないと思うこともある。自分にとっては子どもがいないといかない公園。ファンクラブがあることで活動の状況を知ることができるのは良かったと思う。最初は存在すら知らなかった公園愛護会だが、以前気になって公園のゴミを自主的に拾っていた時に声かけしてくれた人が愛護会の方だったと、会議に参加することで記憶がよみがえった。地域の中には様々な活動があるけれど、子どものことがどうしても優先される。私も自宅を町の集会所として時々開いているが、子どもが巣立っていった後も地域との繋がりを感じられる場が、いくつかあることは大事だと感じる。

地域交流花壇イベントに参加した方(40代女性)

美しが丘西で生まれ育ち、公園がなかった頃の野山で駆け回って遊んだ記憶がある。今は6歳の娘とその仲間たちとよく過ごしていて公園遊びのLINEグループを作っている。幼稚園の課題で「地球のごみひろい」という期間があり、園バスの停留所から自宅までの間立ち寄る保木公園のごみも拾っていた。公園遊びの仲間が、公園正面のマンションに住んでいて、クリーンデーのことを知り参加するようになった。それからファンクラブができたと聞いて参加。11月の地域交流花壇づくりに、ファンクラブに入っていない公園仲間も誘い5組10人以上で参加した。1組あたりの球根数が多くて用意も行き届き、ちいさな子でも楽しめてありがたかった。公園愛護会のことはほとんど知らず、今でもよくわかっていないかもしれないが知り合いの夫もメンバーだと聞いた。ファンクラブが他の地域にはない新しい取り組みということも初めて知ったが、LINEの情報は、参加していない人への配慮もしてくださっていて人のあたたかみを感じる。寒い季節になってクリーンデーには参加していないが、またできる時に関わりたい。

社会福祉法人緑成会 障がい福祉サービス事業所 桃の実 所長と担当スタッフの方

2021年の10月から公園での堆肥づくりや花壇づくりの活動に参加する機会をいただき、利用者さんから積極性が引き出されたことに驚いています。これまでも、定期的に地域清掃としてまちや公園のゴミ拾いはしていましたが、作業への取り組み方が違います。竹箒で落ち葉を掃き集めて堆肥ボックスに入れる作業や、大きなスコップや鍬で土を耕して球根を植える作業など、すべて初めての作業。堆肥って？と職員も何も分かっていないところから、わかりやすく教えていただき、「また行きたい」とか「今日は作業ないの？」と聞かれることも。作業中に地域の方に声がけいただくことも多く、自然の中で体を使って自由に動ける楽しさに加え、人の役に立っていることを実感できるので、終了後に心地よい疲労感と充足感に包まれていることが伝わってきます。作業に参加できるのは利用者さん13人中、3～5人と全員ではありませんが、施設の中だけに閉じずに、地域の中で関わりを持てる場所、自分たちに出来ることが増えていくことは大変嬉しく、今後も継続して関わらせていただきたいです。

アドバイザー小島理恵さん(Q-GARDEN)

最初に驚いたのは、住民の皆さんの企画力や行動力がすごいことでした。支援しはじめの頃は、ゴミ問題や、ハード面の課題に目がいきがちで、「植物を通したコミュニティづくり」という面で着地点が見出せない感じもありましたが、具体的な活動や対話が進むうちに、こんなことできたらいいな、という当初のイメージがかなり実現されていったと思います。

広い公園をボランティアでメンテナンスし続けることは大変なこと。機に応じて、外からの支援をすることで、活動が活性化するととても良い事例になったのではないかと思います。先日、「保木公園探検」イベントの講師役で再び伺いましたが、イベントの企画や進行も上手で安心して参加することができました。何より子どもたちが木の話やメモをするなど積極的に学んでいた姿が微笑ましかったです。土に触れる機会が減っている中で、公園を通じて身近な自然環境への興味を持つ人が増えていくといいですね。

5: 保木公園の方々が考える今後の展望

花を楽しむ公園のイメージ
今後根付いていくといいな

「動物」とのふれあいを
テーマにしたイベント企画したい

周囲の公園とつながる企画
できないかな

なかなか減らないポイ捨てゴミ
定期清掃引き続き続けていきたい

桜の苗木育てて
のんびり花見したい

星や月を観る会楽しかった
定番化したいな

学校との連携も
考えていきたい

防災・防犯・災害時の拠点という視点からの
公園の機能等の見直しも大事だな

公園周辺で育った人の話や
土地の昔話もっと聞きたい

できる人ができる時に
無理なく活動できる愛護会活動
定着させたい

もっと自由に、もっと楽しく

愛護会とファンクラブとの間に壁ができて、関係性や役割が固定化しないようにと思っている。愛護会がどんどん「プロ」になっていくのではなく「素人くささ」を大切にしたい。例えば、スタンプラリーなど、お金を特別かけなくても皆で楽しめるイベントはたくさんあるはず。

園芸部門、花壇づくりや堆肥づくりに関しては、新入りで参加して好きなことやらせてもらった。公園が広いことと、日常的に園芸活動に集まれる人の数が多いことからきめ細やかなお手入れは難しい。自分たちにできることを見極めて、実力に見合ったやり方で無理なく続けていくにはどうしたらいいか、考えていきたい。

引き継いだ当初は、荇子田太陽ローズガーデンのように有名なすごい公園にしたい！というような野心があったが、今は壮大な計画があるわけではなく身の丈で良いと感じている。コロナもまだなかなか落ち着かず、活動は義務ではない。でも、壮大なことを考えるのは自由！変に萎縮する必要はない。地域の歴史の話を聞いてから天体望遠鏡で宇宙を観たときの、みんなの興奮度合いは忘れられない。動物、ペットをテーマにしたイベントはぜひ企画したい。

ハレとケのハレのイベントが大好き。昨年公園で切った桜の木の枝がまだ手元にあるので、染め物企画は実現させて、こんなにきれいな色に染まるんだという体験をみんなでしたい。

公園は地域の幅広い人に開かれている。禁止の言葉はなるべく無くしたい。ゴミ拾いにしても、花壇づくりにしても、もっと自由度高く参加できるようにしたい。

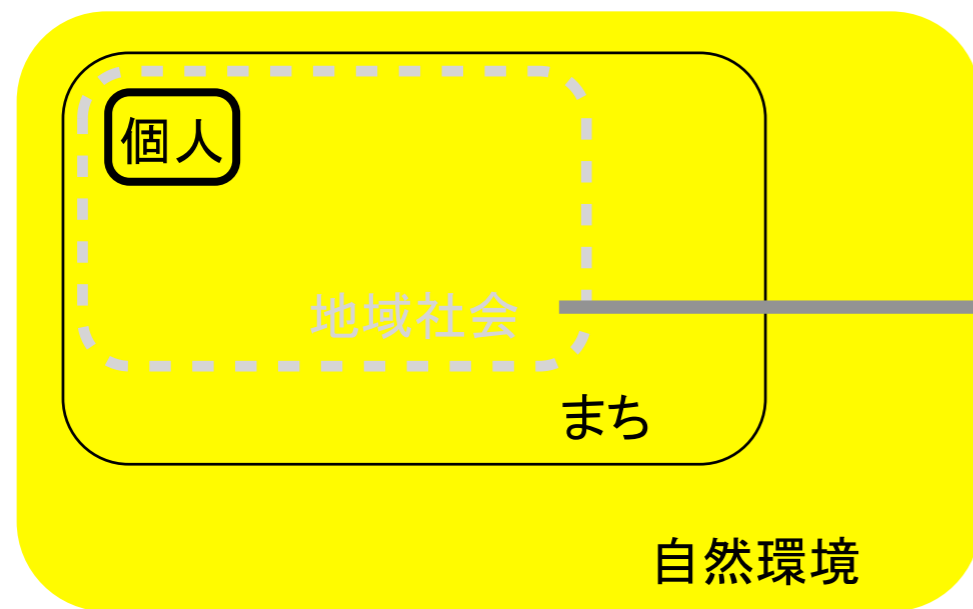
6: 補足と考察

一つ一つ違う愛護会活動の多様な形

フラワーダイアログあおばで取材やヒアリングを行う中で、愛護会の活動にも様々な形があることがわかってきた。自治会やPTAなど地域活動全般に言えることだが、近隣の愛護会がどんな活動や運営方法をしているのかを知る機会は少ない。また知ったとしても一人では運営形態を変えていくのは難しい。愛護会通信を読んだり、土木事務所主催の愛護会の集いなどに参加することで他の公園の活動状況を知ることができるが、平日昼間に開催される会合に参加できる人は限られてくる。個別で具体的な愛護会の活動の仕方や工夫について、わかりやすく知る機会が増えていくことで、それぞれの良さを活かしながら、より活発な活動ができるようになるのではないかな。

公園愛護会マニュアルの前に必要なもの

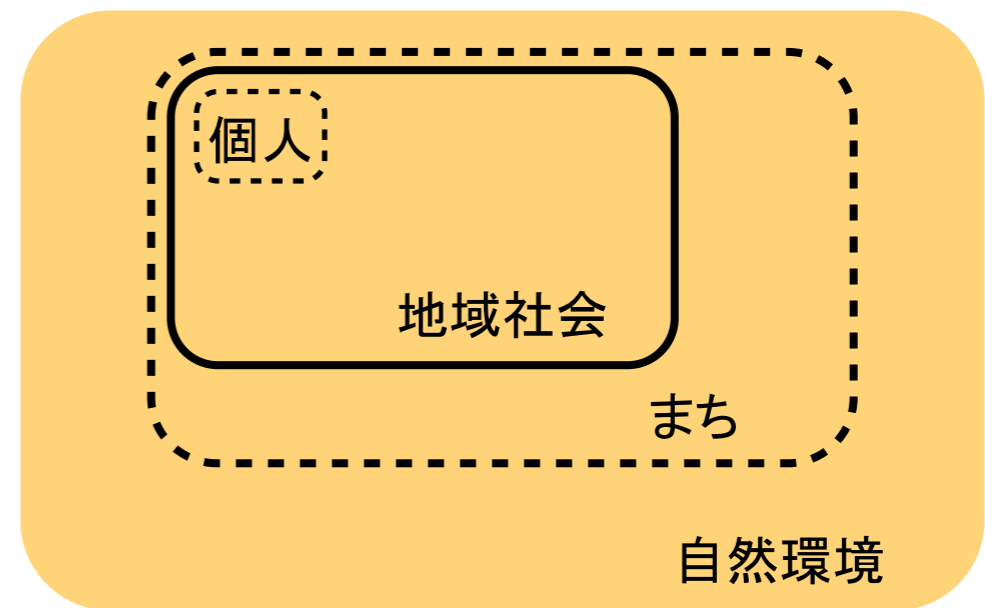
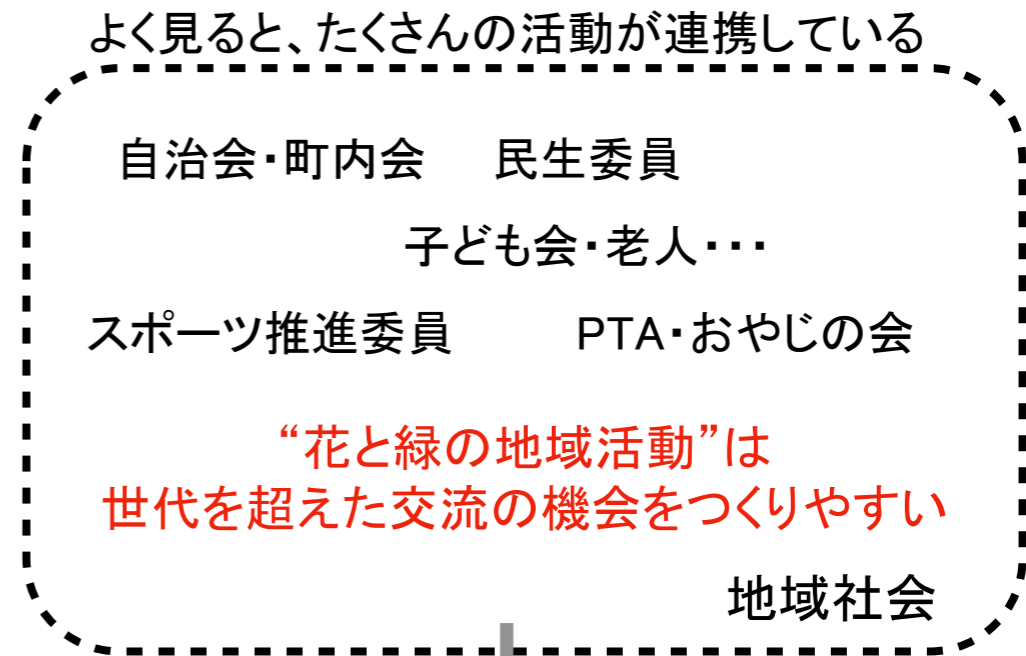
横浜市環境創造局では、公園愛護会の活動の参考となるよう、基本的な情報を簡略にまとめた公園愛護会マニュアルを作成し、インターネット上で公開しているほか、公園愛護会に加入した際にも配付している。しかしそれでも、愛護会の活動自体を知らない人や、活動を行っている人でも地域の持ち回りの義務と感じている人が中にはいる。「フラワーダイアログあおば」事業では、花や緑に関する活動を行っている人同士や、活動に興味を持っている人たちをつなぐイベントの実施、様々な花や緑に関する活動取材し、記事・SNSによる発信といった取組を行っている。そういったイベントや、記事・SNS、本報告書を通して、色々な花や緑に関する活動を知り、ヒントにさせていただくことで、自分たちらしい活動をつくっていく方々が増えることを期待したい。



自然環境があって、まちがあり、
地域社会があって、個人の暮らしがある。

地域社会とのつながりがなくなると
お金でまちのサービスや機能を
買うことが当たり前となり、
経済的にも精神的にも、
個人の負担や不安が大きくなる。
自然環境は個人では手入れも活用もしきれない。

個々人がフラットに意見を交換し、
開かれた対話の場を核としながら進めていった
保木公園愛護会の取組は
これからの地域社会の「在り方」のモデルとしても
参考になるのではないだろうか。



“花と緑の地域活動”は
自然環境とまち、個人と地域社会を
ゆるやかにつなぐ場になる

資料集

[フラワーダイアログあおば特集ページ](#)

[公園の「ファンクラブ」で「愛護会」が元気に！ 保木公園のモデルプロジェクト](#)

< その他の近隣公園の記事と取り組み >

[熱い想いと地道な活動で生まれ変わった美しが丘公園 そして次の世代へ](#)

[原野のおもかげに、細やかな人の手のあたたかさが宿る | 藤が丘公園愛護会](#)

[身近な緑にズームイン！ 公園さんぽ&愛護会体験レポート](#)

< 横浜市の情報 >

[横浜市の公園愛護会のページ](#)

[公園愛護会マニュアル](#)

[ハマロード・サポーターのページ](#)

< その他、緑に関する情報等 >

[よこはま緑の推進団体](#)

[地域緑のまちづくり提案事業](#)

[あおばスタート補助金](#)